

## 備えがあれば 冬も安心! 愛知の道

### ①冬道での事故防止を進めよう

- 冬道の危険を周知しておこう
- 大雪による立ち往生対策をすすめておこう

### ②感染症対策をすすめよう

- 感染症予防を指導しよう



#### 冬道の危険を周知しておこう

冬期は積雪や路面凍結などが発生します。油断していると、スリップ等による事故が起きるおそれがあります。県内でも、二月に積雪することがあります。冬道走行における危険と事故防止策を周知しておきましょう。たとえば、積雪路や凍結路はスリップしやすくなります。とくにカーブやトンネルの出入口、橋の上、交差点はスリップしやすいため注意が必要です。また、停止距離も乾燥路面よりも長くなります。

このような冬の事故を防止するために、スピードを抑えた走行、普段の二倍以上の車間距離の確保、急な運転操作はしないといった事故防止対策を徹底するよう指導しておきましょう。

#### 大雪による立ち往生対策をすすめておこう

近年、予想を超える大雪による立ち往生が多発しています。いざというときにあわてないよう、備えを万全にしておきましょう。

管理者は運行ルート上の天候や道路状況の把握に努め、大雪が予想される地域での運行がある場合は、ルートの変更や運行の中止など、安全を優先して計画を再検討してください。

また方が一の立ち往生に備えて、車両にはタイヤチェーンをはじめ、防寒具、スコップ、軍手、モバイルバッテリー等の携行品を搭載しておきましょう。

立ち往生した際、雪で車の排気口がふさがれて排気ガスが車内に逆流すると、一酸化炭素中毒になり死に至るケースがあります。運転者には、マフラー周辺の定期的な除雪を指導しておきましょう。

#### 感染症対策を指導しておこう

二月は寒さがピークを迎え、空気も乾燥します。インフルエンザやノロウイルスといったさまざまな感染症への警戒が必要です。

感染症対策の基本として、うがいとこまめな手洗い、咳エチケットを徹底するよう指導しておきましょう。

体調が悪そうな従業員を見つけた場合は、運転業務をさせずに、早めの医療機関の受診を促してください。

また、安易に薬を服用して、その副作用による眠気等が原因となる事故が発生しています。薬を服用する際は、眠気を引き起こす等の副作用がないかをチェックするように指導しましょう。

さらに、バランスの良い食事や質の良い睡眠といった規則正しい生活を心掛けるように呼び掛けましょう。